

新たな鶏の改良増殖目標のポイント

現状と課題

- 多様な消費者ニーズに対応した鶏卵・鶏肉の安定供給を図るため、国産鶏種の改良・増殖等が必要である。
- 遺伝資源の安定的な確保や生産コストの低減等に資する取組が必要である。

対応の方向

卵用鶏は、大玉も好む消費者ニーズ等を踏まえ、卵質の改良を推進する。

肉用鶏（ブロイラー）は、増体性や育成率を向上させ、生産コストの低減を図る。

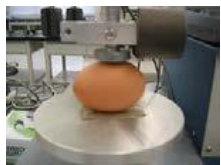
国産鶏種（地鶏等）は、増体性や産卵性の向上を図るとともに安定的な生産及び供給を推進する。

鶏の改良・増殖の基盤強化のため、国産鶏種の遺伝資源は、始原生殖細胞（PGCs※¹）の保存技術を活用して安定的に確保できるようにする。

卵用鶏

消費者ニーズを踏まえた卵質の改良

- ・地域によって好まれる卵の大きさが異なることから、61～65 g と幅のある卵重量の目標を設定。
- ・卵殻強度や肉斑・血斑※²の発生率の改善のための改良を推進。



卵殻強度の測定



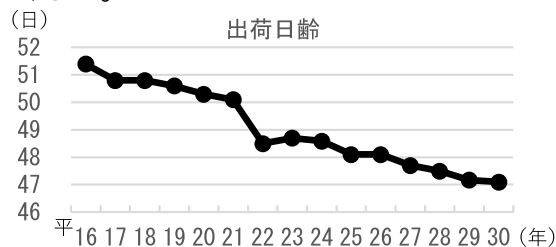
肉斑

※² 肉斑は鶏卵内に肉片様のものが付着したもの（左図）。血斑は鶏卵内に血液が付着したもの。

肉用鶏（ブロイラー）

増体性等の向上による生産コストの低減

- ・飼料要求率と増体の改善を図ることにより、適正な日齢での出荷を推進。
- ・飼養・衛生管理の改善等により、育成率を向上。



国産鶏種（地鶏等）

増体性や産卵性の向上及び安定的な生産及び供給

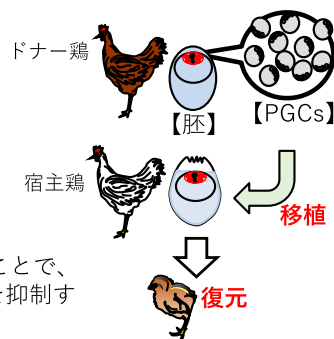
- ・（独）家畜改良センターや都道府県が所有する原種鶏を活用して、増体性や産卵性が高い種鶏を造成し、安定的な雛の生産と供給を推進。



遺伝資源の安定的な確保

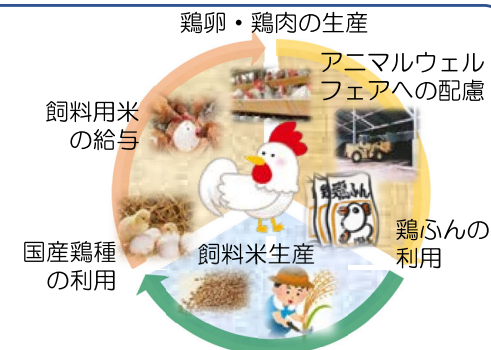
遺伝資源の保存や改良増殖に貢献する始原生殖細胞（PGCs※¹）の保存等の技術習得及び普及体制について、関係者間で連携体制の構築を図る。

※¹ 受精卵の胚に出現する、将来精子や卵子になる細胞（Primordial Germ Cells）。この細胞を保存し利用することで、疾病等により途絶えた遺伝資源の再生や近交係数の上昇を抑制することができる改良体制の構築に資することが可能。



SDGsに配慮した鶏卵・鶏肉の生産

国産鶏種と飼料用米の活用等を組み合わせた持続可能性（SDGs）に配慮した鶏卵・鶏肉の生産について、JAS等の認証制度を活用しながら推進する。



家畜及び鶏の増殖目標

【乳用牛】

- 我が国の乳用牛改良基盤を維持するとともに、牛乳・乳製品の安定的な供給を確保し、牛乳・乳製品の需要動向に即した生産を行うことを旨として頭数目標を設定。

総頭数	132万頭（現在133万頭）
うち2歳以上の雌牛頭数	91万頭（現在 92万頭）

【肉用牛】

- 牛肉の需要動向に即した生産を行うことを旨として、飼養頭数目標を設定。特に、遺伝的能力評価に基づく優良な繁殖雌牛の増頭を図るとともに、乳用後継牛の不足を生じさせない範囲で、受精卵移植技術を活用した和子牛の生産拡大等を推進。

総頭数	303万頭（現在 251万頭）
うち肉専用種	243万頭（現在 172万頭）
うち乳用種・交雑種	60万頭（現在 79万頭）

【豚】

- 豚肉の需給動向に即した生産を行うことを旨とした飼養頭数を設定。

総頭数	853万頭（現在 916万頭）
-----	-----------------

【馬】

- 利用目的ごとの需給動向に応じた頭数となるよう努める。

【めん羊】

- 需要動向に応じた頭数となるよう努める。

【山羊】

- 乳用、肉用それぞれ需要動向に応じた頭数となるよう努める。

【鶏】

- 鶏卵・鶏肉の需要動向に即した生産を行うことを旨として、飼養羽数の目標を設定。

卵用鶏	188百万羽（現在185百万羽）
肉用鶏	148百万羽（現在138百万羽）

- また、多様化する消費者のニーズに応え、特色ある鶏の増殖に向けた種鶏の羽数が十分に確保されるよう努める。